

23Hのみなさんへ

3月2日からはや1ヶ月以上経ちましたが、みなさんはどのように過ごしているでしょうか。コロナウィルスは一向に終息の兆しを見せず、先行きが見えず不安ななかですが、先日行われた教科書販売では何人もの元気な顔を見ることができて少し安心しています。

最近門田隆将さんの『死の淵を見た男 吉田昌郎と福島第一原発』を読みました。9年前の東日本大震災で起こった福島第一原子力発電所の事故において、事故当初原子炉の封じ込めに命をかけた約50名の作業員を描いたノンフィクション作品です。津波直後の凄惨で困難を極める状況の中で、何がベストかを常に探りながら協力して命がけの作業にあたる姿に改めて胸をつまらせるとともに、先週の水曜日で9年の月日が経過した今も様々な問題を抱えている状況に、原子力の恐ろしさを痛感します。ぜひ手に取ってみてください。

本の紹介とともに、この機会に皆さんに考えてもらいたいと思うことは、「自分は今をしっかりと生きているだろうか」「常にベストを尽くそうとしているか」ということです。「自分の将来のプラスにするために今、〇〇をやっておこう」「自分の将来のために〇〇に挑戦してみよう」という気持ちで前向きな時間の使い方ができているでしょうか。

自分の目指すべき進路が固まって走り出している人、まだまだ固まらず迷っている人、どうしていいかわからず立ち止まっている人、それぞれかと思えます。もうじき自分の進路の方向性を決める高校3年がやってきます。

最後に、去年の4月に学級日誌の表紙裏に載せた言葉をもう一度贈ります。

「未来はすでに始まっている」 ～ロベルト・ユンク～

4月8日に再びお会いしましょう。くれぐれも体調を崩さないように！

23H担任 福田 宣史